

第 1 章 都市の現況と課題の整理

1-1 石川町の概況

1-2 上位計画等の把握と都市整備の方向性

1-3 町民意向の把握

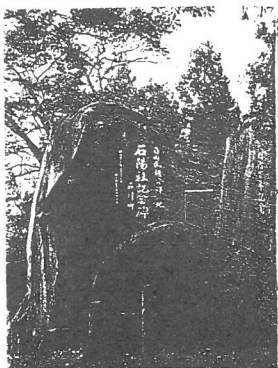
1-4 まちづくりの現況と課題

第1章 都市の現況と課題の整理

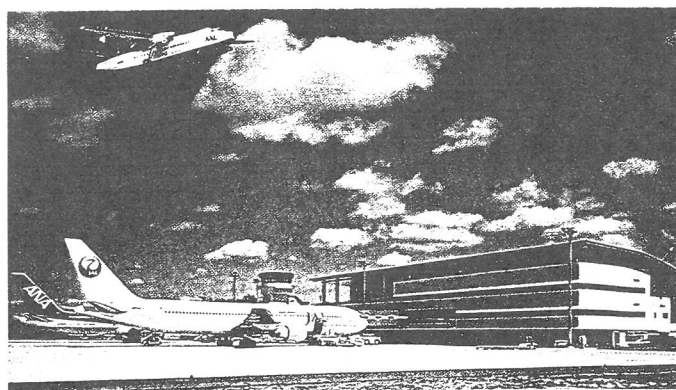
1-1 石川町の概況

1. 都市の沿革

- 石川町の歴史は古く、背戸B遺跡など旧石器時代後期（約1万5千年前）からの遺跡が確認されている。縄文時代の遺跡は93箇所ほど確認され、県指定史跡烏内遺跡に代表される弥生時代の遺跡も数多く発掘されている。古墳時代の遺跡も多いが、文献で石川の地名が確認できるのは、平安時代に編纂された和名抄（931年～938年）が初見である。
- 街並がつくられたのは、源有光が前九年の役（1051年～1062年）の後石川庄に土着し（1063年）、下泉の地に三芦城を築き城下町をつくったことに始まる。石川氏は、平安後期から戦国時代500年余にわたり、一族が石川地方を開拓し治世を行ってきた。しかし、天正18年（1590年）小田原北条攻めの不参を理由として豊臣秀吉に領地を没収され、石川氏の支配は終わった。この間、清和源氏一族の石川氏は、鎌倉、室町幕府との交流が強く板碑等仏教文化水準の高さを誇っている。江戸時代になると、領主がめまぐるしく代わり、百姓一揆や世直し一揆がたびたび起こったが、御斎所街道、常陸街道の宿場町、市場町として栄えた。
- 明治に入ると、明治8年（1875年）河野広中により、関東以北最初の政治結社「石陽社」が設立され、多くの民権家を生み自由民権発祥の地として全国的に有名である。こうした中から、明治25年（1892年）に石川義塾（現学法石川高校）が設立され、多くの人材を輩出している。また、明治12年（1879年）には石川郡役所が設置され、石川地方の政治経済の中心としての役割を果たすこととなる。
- 昭和9年（1934年）12月には水郡線が開通し、浜通りと県中県南部への結節点として農産物や鉱物資源の積み出し地として賑わいを見せ、昭和30年（1955年）には1町5村が合併し、現在の石川町が誕生した。近年では、平成5年（1993年）に福島空港が開港するとともに、平成9年（1997年）には阿武隈新高原都市構想の中の先導的プロジェクト地区である「あぶくま新都市（仮称）」に位置付けられるなど、石川地方の産業、文化、行政の中心として今後の発展が期待されている。



石陽社記念碑



福島空港

2. 自然条件

(1) 位置

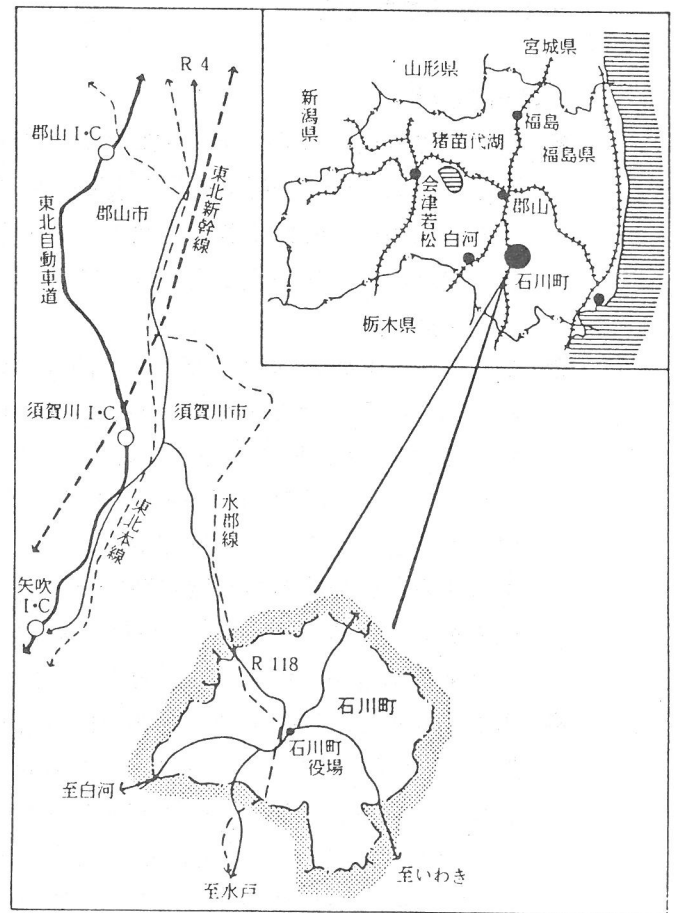
- 石川町は福島県中通りの南部に位置し、東西 18.9 km、南北 18.3 km、面積は 115.7 km²を有している。

(2) 地形・地勢

- 標高は概ね 270m～570mで、阿武隈川、社川流域に開けた南西部の平坦地と阿武隈山地に連なる山間部に二分されており、これらの山間を流れる北須川・今出川流域に市街地が密集し形成されている。

(3) 地質

- 石川町の地質は、東半分が御斎所・竹貫変成岩、西半分は花崗岩類が分布している。二つの異なった岩石が接するところにあるため、大変複雑な地質構造となっており、多種多様な岩石と鉱物が産出される。
- これらの岩石はジュラ紀（約1億5千万年前）に形成され、非常に安定した地質となっている。



(4) 気候

- 年平均気温は摂氏 10℃～12℃前後、年間降水量については 1,100mm～1,300mm で、平坦地は比較的降水量は少ないが山間部は冬期の気温低下が著しくなる。

気象概況

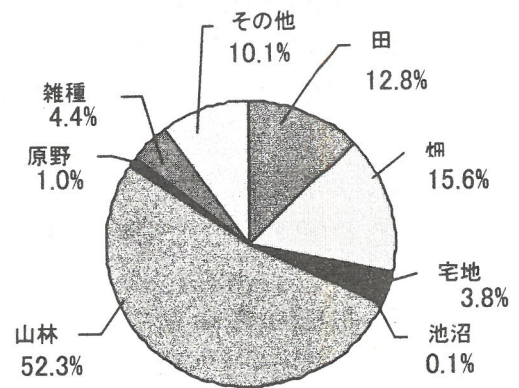
年次	気 温			降 水 量		平均風速
	年平均	最 高	最 低	総 量	最大日量	
	℃	℃	℃	mm	mm	m/s
平成3年	11.9	33.4	- 8.4	1,788	158	1.51
4	11.3	34.5	- 7.0	1,155	51	1.56
5	10.2	31.9	- 7.0	1,312	98	1.59
6	12.1	36.2	- 10.5	1,129	87	1.67
7	11.3	34.5	- 9.1	1,237	83	1.53
8	11.0	34.0	- 11.1	888	99	1.60
9	11.8	33.7	- 7.3	1,056	49	1.50
10	12.2	33.4	- 9.9	1,504	103	1.50
11	12.1	33.9	- 9.8	1,302	99	1.40

資料：福島県気象月報 観測地点：福島県石川土木事務所

■地目別土地面積

(5) 土地利用特性

- 土地利用については、地形的な条件から山林が全体の約2分の1を占め、西部平坦地を中心とした農用地とともにほぼ自然的土地利用となっている。
- 宅地は全体の約3.8%に過ぎず、そのうち約3分の2が住宅地となっている。



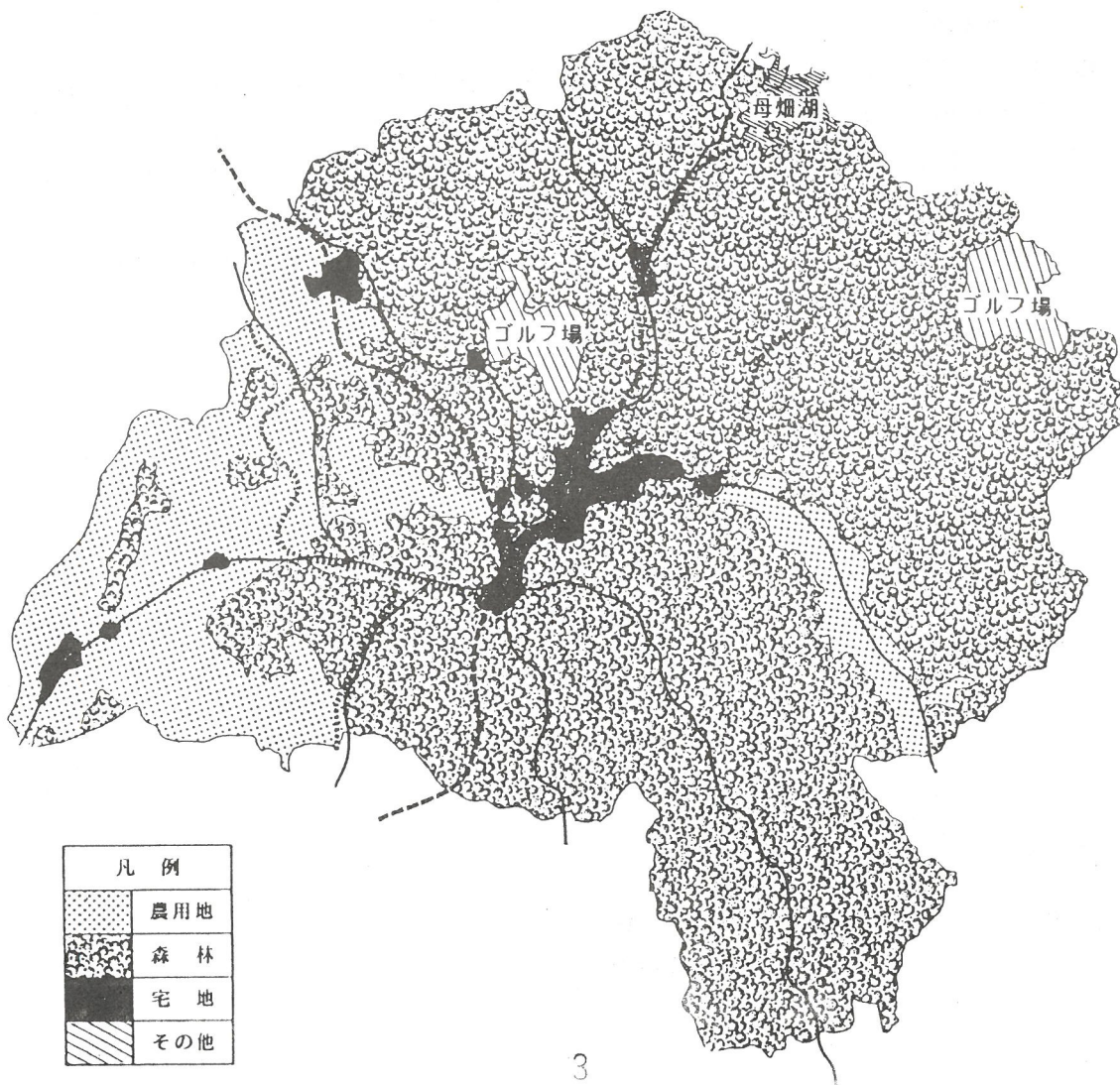
(平成12年)

地目別土地面積

(単位: ha)

	田	畑	宅地	池沼	山林	原野	雑種地	その他
平成8年	1,517	1,724	419	6	6,239	127	481	1,058
平成9年	1,510	1,783	423	6	6,132	125	482	1,110
平成10年	1,490	1,818	427	6	6,058	116	508	1,148
平成11年	1,486	1,807	430	6	6,055	116	509	1,162
平成12年	1,482	1,801	434	6	6,053	116	509	1,170

各年1月1日現在 資料: 町税務課



3. 都市計画区域・用途地域等

(1) 都市計画区域

- 石川町の都市計画区域は、昭和 23 年に旧都市計画法に基づき 6,313ha が指定され、昭和 57 年、平成 9 年に変更・拡大を受け、現在の 7,814ha に至っている。

(2) 用途地域

- 用途地域の当初決定は昭和 62 年であり、その後変更を受け平成 9 年現在では 286.0ha が指定されている。
- 用途地域種別としては、指定区域の約 3 分の 1 が第一種住居地域 (98ha) であり、商業系用途地域及び工業系用途地域を合わせても、用途地域全体の約 4 分の 1 (72ha) に過ぎない。

都市計画用途地域等の指定状況

行政区画								11,571ha	風致地区第3種 石尊山風致地区 7.1ha 源平山風致地区 5.5ha 八幡山風致地区 17.1ha
都市計画区域								7,814ha	
用途地域								286ha	
第1種 低層住居 専用地域	第1種 中高層 住居専用 地域	第1種 住居地域	第2種 住居地域	近隣商業 地域	商業地域	準工業 地域	工業地域		
60.0ha	42.0ha	98.0ha	14.0ha	19.0ha	16.0ha	29.0ha	8.0ha		

(3) 都市施設等

- 主な都市施設としては都市計画道路 11 路線等が計画決定されているが、流域下水道・公共下水道については都市計画決定されていない。
- また、公園・緑地については平成 2 年 11 月 2 日に「石川町総合運動公園 (37.0ha)」が都市計画決定されるとともに、一部開設済の同公園は「クリスタルパーク石川」の名前で親しまれているほか、風致地区が 3 地区合計 29.7ha 指定されている。

都市計画道路の状況

番 号	名 称	延 長 (m)	幅 員 (m)	改 良 済		概 成 済		計 画 決 定 年 月 日
				延 長 (m)	概 成 比 (%)	延 長 (m)	概 成 比 (%)	
2.3.1	下泉屋敷入線	1,750	11	920	52.6	830	47.4	S26. 8.30
1.小.2	立ヶ岡北町線	2,300	8	0	0	1,180	51.3	S26. 8.30
2.小.2	今出橋本宮線	300	6	0	0	290	96.7	S26. 8.30
2.3.2	石川 神前線	1,450	11	600	41.4	0	0	S25. 7.15
1.小.3	駅前立ヶ岡線	200	8	0	0	0	0	S26. 8.30
2.小.3	神前橋大室線	1,000	6	0	0	1,000	100	S27. 1.26
1.小.4	猫啼宮橋線	2,500	7	0	0	2,500	100	S26. 8.30
1.小.5	鹿ノ坂南町線	150	8	0	0	0	0	S26. 8.30
1.小.6	新町長久保線	1,600	8	0	0	1,600	100	S26. 8.30
1.小.7	高田北町線	150	8	0	0	0	0	S26. 8.30
1.小.8	新町本宮線	950	8	0	0	950	100	S26. 8.30
合 計	11 路 線	12,350		1,520	12.3	8,350	67.6	

資料：都市計画年報

都市下水路の状況

名 称	下水管渠名称	延 長		整備率 (%)	計画決定 年 月 日
		計 画 (m)	供 用 (m)		
石川都市下水路	第1号下水路	430	430	100	S37. 10. 4
	第2号下水路	380	380	100	
合 計		810	810	100	

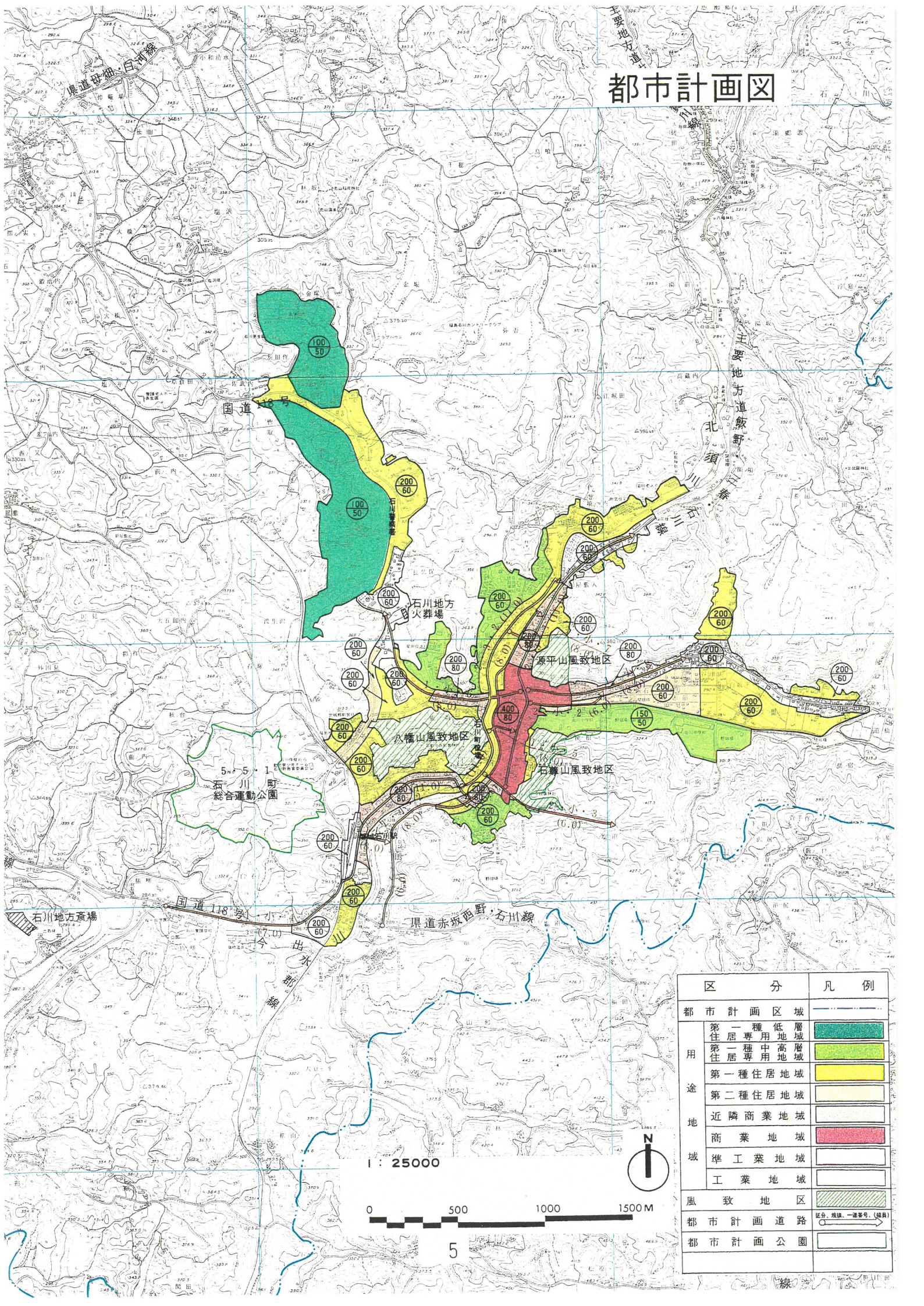
資料：都市計画年報

駅前広場の状況

駅 名	鉄 道 名	面 積 (㎡)		計 画 決 定 年 月 日	関 連 道 路	
		計 画	供 用		番 号	名 称
磐城石川駅	水 郡 線	730	525	S26. 8.30	1.小.4	猫啼宮橋線

資料：都市計画年報

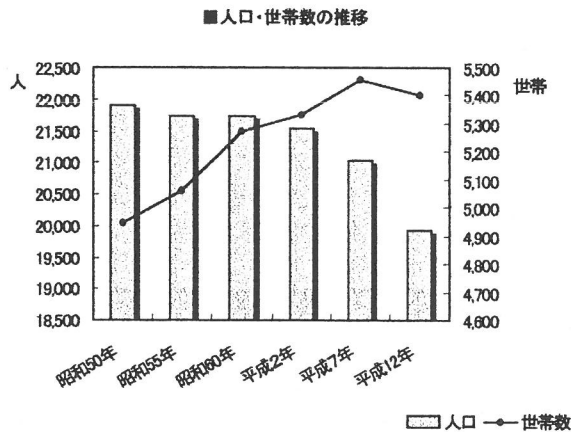
主要地方道



4. 社会条件

(1) 人口・世帯数

- 人口は昭和 50 年代から 60 年代の横ばい傾向から平成 2 年以降には減少傾向を辿っており、特に近年では急激な人口減少がみられる。なお、平成 12 年では 19,913 人となっている。



人口の推移

(単位：人)

	人口	増減率 (%)
昭和 50 年	21,893	
昭和 55 年	21,731	△ 0.74
昭和 60 年	21,727	△ 0.02
平成 2 年	21,534	△ 0.89
平成 7 年	21,026	△ 2.36
平成 12 年	19,913	△ 5.29

資料：国勢調査

- 世帯数は平成 7 年までは年々増加を続けていたが、平成 12 年の急激な人口の減少に伴い減少している。
- 世帯構成人員は、若年層の独立、少子化や高齢者の単身世帯の増加などから、1 世帯あたりの人員は昭和 50 年には 4.43 人／世帯であったが、平成 7 年には 4 人／世帯を割り、平成 12 年には 3.69 人／世帯となっている。

世帯数の推移

(単位：世帯)

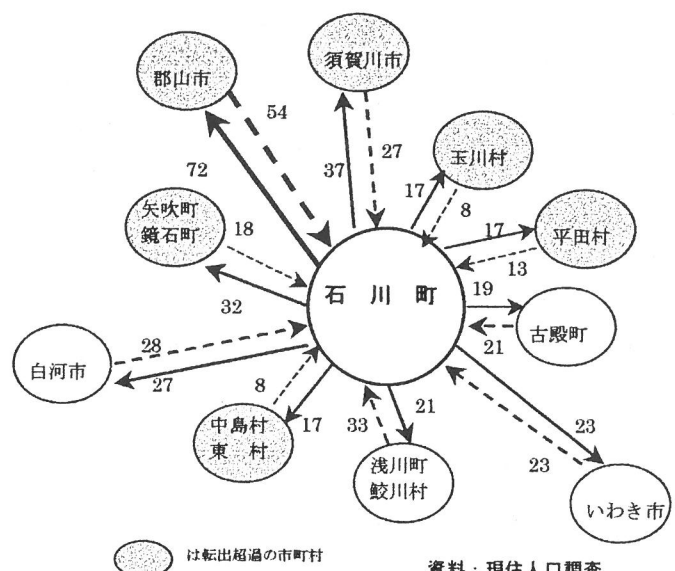
	世帯数	増減率 (%)	1 世帯あたり人員
昭和 50 年	4,945		4.43
昭和 55 年	5,061	2.35	4.29
昭和 60 年	5,274	4.21	4.12
平成 2 年	5,330	1.06	4.04
平成 7 年	5,458	2.40	3.85
平成 12 年	5,402	△ 1.03	3.69

資料：国勢調査

(2) 人口動態

- 平成 11 年の近隣市町村の転入・転出数をみると、郡山市（転入 54 人・転出 72 人）、須賀川市（転入 27 人・転出 37 人）、矢吹町・鏡石町（転入 18 人・転出 32 人）などにおいて転出超過となっている。
- 一方、古殿町、浅川町・鮫川村など本町の南部、南東部に接する近隣町村においては、転入数が上回っている。

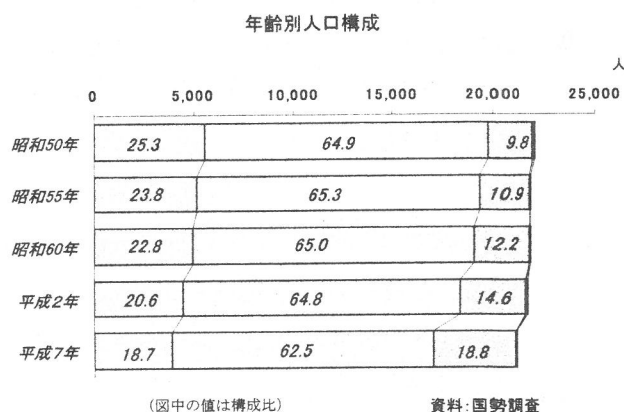
■近隣市町村の転入・転出数 (平成 11 年)



資料：現住人口調査

(3) 年齢別構成

- 年齢段階別の人口構成をみると、昭和 50 年に年少人口及び成人人口がそれぞれ 25.3%、64.9%であるのに対し、平成 7 年にはそれぞれ 18.7%、62.5%と減少しており、特に少子化傾向を受けて年少人口の大幅な減少がみられる。一方、老年人口は年々増加傾向にあり、平成 7 年の高齢化率は 18.8%と県平均の 17.4%と比較しても高齢化が進んでいることがわかる。



年齢別人口構成

	人口 (人)	年 齢 構 成 別 人 口					
		年少人口 (0歳~14歳)		成人人口 (15~64歳)		老年人口 (65歳~)	
		人口 (人)	構成比 (%)	人口 (人)	構成比 (%)	人口 (人)	構成比 (%)
昭和 50 年	21,893	5,541	25.3	14,218	64.9	2,134	9.8
昭和 55 年	21,731	5,168	23.8	14,191	65.3	2,372	10.9
昭和 60 年	21,727	4,961	22.8	14,126	65.0	2,640	12.2
平成 2 年	21,534	4,443	20.6	13,960	64.8	3,131	14.6
平成 7 年	21,026	3,926	18.7	13,137	62.5	3,963	18.8

資料: 国勢調査

(4) 地区別人口

- 地区別人口は野木沢地区で増加傾向がみられるほかは軒並み減少、世帯数は沢田地区及び中谷地区で増加している。
- 6地区別の人口の平成 7 年から平成 12 年の推移をみると、町全体の約 4 割を占める石川地区においては、人口、世帯数ともに急激な減少がみられる。

地区別人口・世帯数の推移 (単位: 人・世帯)

		平成 7 年	平成 12 年
石 川	人口	8,560	7,718
	世帯数	2,520	2,350
沢 田	人口	2,408	2,365
	世帯数	513	523
山 橋	人口	2,109	1,988
	世帯数	447	446
中 谷	人口	3,488	3,435
	世帯数	840	897
母 畑	人口	1,771	1,614
	世帯数	461	460
野木沢	人口	2,690	2,793
	世帯数	677	726
計	人口	21,026	19,913
	世帯数	5,458	5,402

資料: 国勢調査

- 就業者数は、流入及び流出人口ともに増加しているが、平成7年においては、流出人口の大幅な増加により流出超過となっている。
- 昭和60年から平成7年までの通勤・通学状況の推移をみると、総人口の減少に加えて流出就業者数の大幅な増加から昼間人口の減少がみられ、昼夜間人口比率は年々減少傾向にある。

(单位:人)

年次	区分	常住人口	移動人口			昼間人口	昼夜間人口 比率 (%)
			流入	流出	流入－流出		
昭和 60 年	就業者数	11,393	1,683	1,667	16	11,409	103.4
	通学者数	4,123	891	173	718	4,841	
	その他	6,211	—	—	—	6,211	
	計	21,727	2,574	1,840	734	22,461	
平成 2 年	就業者数	11,174	2,145	2,105	40	11,214	103.3
	通学者数	4,149	1,025	360	665	4,814	
	その他	6,211	—	—	—	6,211	
	計	21,534	3,170	2,465	705	22,239	
平成 7 年	就業者数	10,831	2,457	2,609	△ 152	10,679	103.0
	通学者数	3,637	1,100	310	790	4,427	
	その他	6,558	—	—	—	6,558	
	計	21,026	3,557	2,919	638	21,664	

- 平成7年の近隣市町村の就業者人口の移動をみると、郡山市、須賀川市、白河市、矢吹町・鏡石町、中島村・東村への流出が目立ち、流入人口を大きく上回っている。
- 一方、本町の北部、東部、南部にかけて接する玉川村、平田村、古殿町、浅川町・鮫川村においては、流入人口が上回っている。

石川町と周辺市町村の人口移動関係図（単位：人）

市町村	石川町への流入（実線）	石川町からの流出（点線）
須賀川市	186	235
玉川村	248	364
平田村	68	246
古殿町	174	339
いわき市	28	23
浅川町 鮫川村	185	390
中島村 東村	232	101
白河市	195	46
矢吹町 鏡石町	237	126
郡山市	239	117

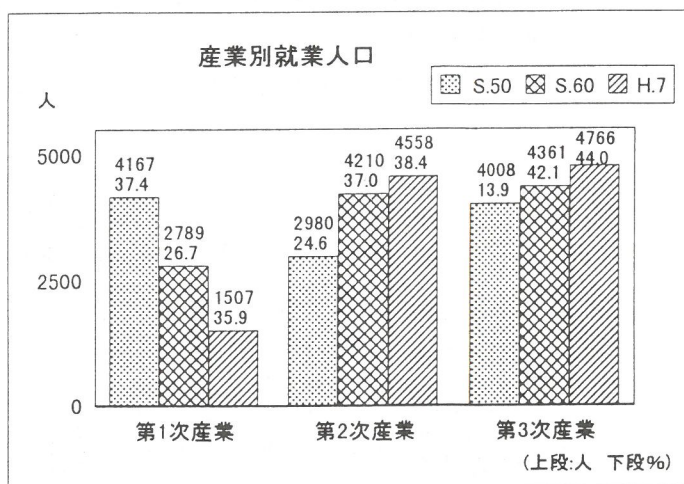
○は流出超過の市町村

資料・国勢調査

(6) 産業

① 産業別就業者数

- 産業別就業者数では、昭和 50 年から 60 年にかけては積極的な企業誘致に伴う就業機会の増加により、第二次産業の飛躍的な伸長が目立っているが、近年の伸び率はやや鈍化する傾向にある。このような第二次産業へのシフトにより、第一次産業の就業者数は昭和 60 年から 10 年間で約 2 分の 1 に減少し、第三次産業についてはほぼ横這いの状態にある。
- 産業別の構成比は第一次 13.9% (1,507 人)、第二次 42.1% (4,558 人)、第三次 44.0% (4,766 人) となっている。



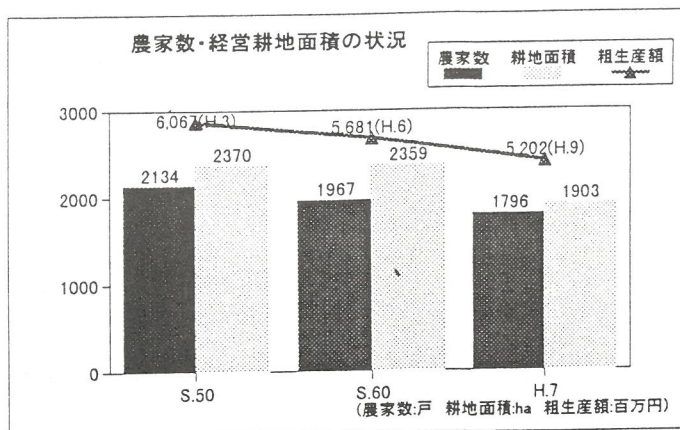
産業別就業人口

年次	第1次産業	第2次産業	第3次産業	第1次産業	第2次産業	第3次産業
	(人)			構成比 (%)		
S.50	4,167	2,980	4,008	37.4	24.6	13.9
S.60	2,789	4,210	4,361	26.7	37.0	42.1
H.7	1,507	4,558	4,766	35.9	38.4	44.0

資料: 国勢調査

② 農林業

- 近年の農業を取り巻く厳しい情勢から、石川町でも農業就業者数・総農家数ともに減少の傾向にあり、農業形態は専業・第一種兼業農家が減少し、第二種兼業化が進んでいる。
- 町の総面積の約 5 割を森林が占めている。森林資源は木材生産のみではなく、水源涵養、環境保全などに重要な役割を果たしている。



農家数・経営耕地面積の状況

年次	農家数 (戸)				耕地面積 (ha)				粗生産額 (百万円)
	計	専業	第1種	第2種	総数	田	畑	樹園地	
S.50	2,134	150	1,009	969	2,370	1,211	900	208	6,067(H.3)
S.60	1,967	180	519	1,268	2,359	1,247	909	203	5,681(H.6)
H.7	1,796	134	199	1,463	1,903	1,129	593	111	5,202(H.9)

資料: 農(林)業センサス・農業基本計画

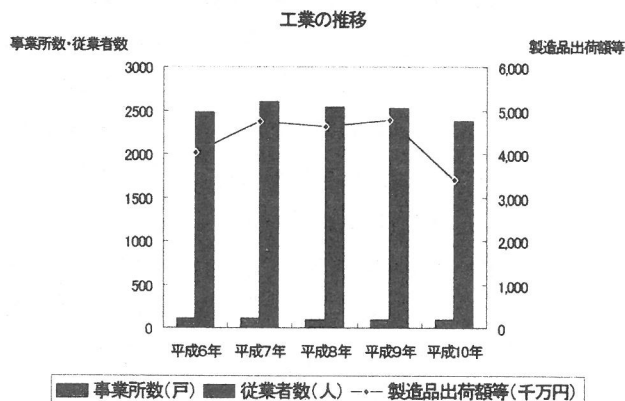
③ 工業

- 本町は郡山地域テクノポリス圏に属していることから、優良企業誘致計画により皮革、電気・機械工業などの企業が定着している。
- 平成6年から平成10年までの工業の推移をみると、平成9年までは製造品出荷額は増加または横ばい傾向にあったが、平成10年においては大幅な減少がみられる。

工業の推移

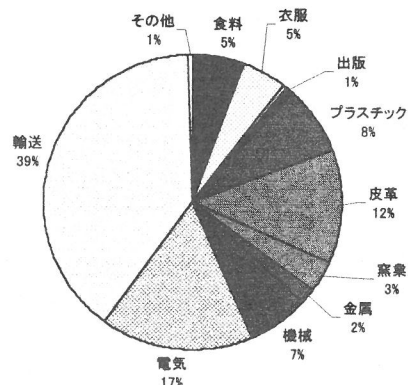
	事業所数 (戸)	従業者数 (人)	製造品出荷 額等(千万 円)
平成6年	98	2,485	4,033
平成7年	102	2,595	4,751
平成8年	95	2,543	4,634
平成9年	97	2,528	4,771
平成10年	96	2,367	3,407

資料：工業統計調査



- 産業分類別の製造品出荷額をみると、輸送用機器、電気機器、皮革製品の3品目が全体の約7割を占めており、本町の主要な産業となっている。
- さらに、福島空港まで約10kmという立地を活かし、輸送機器や電気機器などを中心とした臨空型産業を展開する拠点として期待できる。

製造品出荷額等の内訳



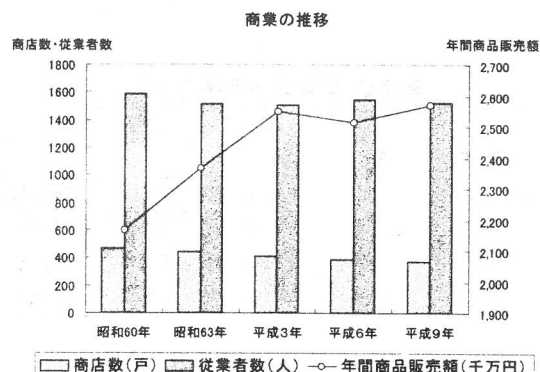
④ 商業

- 昭和60年から平成9年までの商業の推移をみると、年間商品販売額は平成6年に減少したものの平成9年には増加をみせている。
- 小売業については1店当りの売場面積・販売額の規模が小さく、集積に比較して効率が低い。
- 町の顔とも言うべき中心商店街は、道路の幅員が狭いことや駐車場不足、広告・宣伝活動の不十分さに加え、近隣町村の商業力の向上、郊外立地型の大型店の進出などにより商店数の減少が加速しており、町全体を含めた活性化事業の推進が急務である。

商業の推移

	商店数 (戸)	従業者数 (人)	年間商品販売 額(千万円)
昭和60年	468	1,585	2,168
昭和63年	442	1,513	2,367
平成3年	414	1,506	2,549
平成6年	390	1,546	2,514
平成9年	368	1,527	2,571

資料：商業統計調査



⑤ 観光・レクリエーション

- 本町はラジウム含有量東北一を誇る「石川母畑温泉郷」を有しており、毎年約 24 万人前後の観光客を誘引している。
- 平成 7 年から平成 11 年までの入込客数の推移をみると、平成 11 年度の総数は約 24 万人であり、近年では平成 8 年度をピークに減少傾向にある。
- また、平成 11 年度の入込客総数のうち、宿泊客数は約 18 万人で全体の約 75%を占めており、近年は県内・県外客ともに宿泊客の比率が減少し、日帰り客の比率が増加しつつある。

母畑・猫啼温泉等入込客数

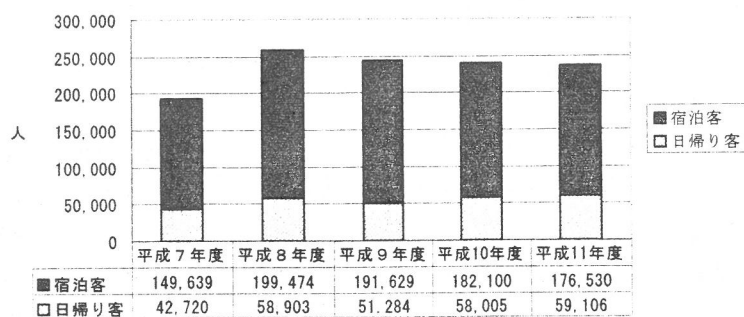
(単位：人)

(下段は日帰り・宿泊客比率：%)

		平成 7 年度	平成 8 年度	平成 9 年度	平成 10 年度	平成 11 年度
県内	日帰り	6,766 (6.6)	8,739 (6.0)	5,408 (3.8)	6,142 (4.6)	6,664 (5.0)
	宿泊	95,587 (93.4)	137,835 (94.0)	136,877 (96.2)	126,968 (95.4)	127,004 (95.0)
	計	102,353	146,574	142,285	133,110	133,668
県外	日帰り	35,954 (39.9)	50,164 (44.9)	45,876 (45.6)	51,863 (48.5)	52,442 (51.4)
	宿泊	54,052 (60.1)	61,639 (55.1)	54,752 (54.4)	55,132 (51.5)	49,526 (48.6)
	計	90,006	111,803	100,628	106,995	101,968
計	日帰り	42,720 (22.2)	58,903 (22.8)	51,284 (21.1)	58,005 (24.2)	59,106 (25.1)
	宿泊	149,639 (77.8)	199,474 (77.2)	191,629 (78.9)	182,100 (75.8)	176,530 (74.9)
	計	192,359	258,377	242,913	240,105	235,636

資料：町企画商工課

母畑・猫啼温泉等入込客数（総数）



- 町内にはゴルフ場が 2 箇所あるが、近年では平成 8 年度をピークに減少傾向にある。
- その他にも、豊かな緑と水などの自然環境や、鉱物資源、古墳群や遺跡などの歴史資源、キャンプ場などの観光レクリエーション施設やクリスタルパーク石川などの施設があるが、町民・観光客がともに親しめるものとして十分な活用がなされていない。

(7) 生活環境等

① 上水道

- 本町の上水道普及率は、平成 11 年現在の総人口 20,306 人に対する給水人口は 13,226 人であり、普及率は 66.3%に達している。
- これは、第 3 次拡張事業が開始された昭和 56 年の給水人口 11,700 人に比較して約 13%の増加であり、このままの推移が継続すれば近年には夏場において一日最大給水量が 7,000 m³を超えることも予想されるため、将来の給水への的確な対応が求められる。

給水状況

	給水戸数 (戸)	給水人口 (人)	年間給水量 (千 m ³)	一日最大給 水量 (m ³)	一日平均給 水量 (m ³)	普及率 (%)
平成 7 年度	3,624	12,896	2,034	6,896	5,557	62.7
平成 8 年度	3,625	12,972	2,070	7,105	5,671	63.6
平成 9 年度	3,696	13,242	2,053	6,710	5,624	65.4
平成 10 年度	3,692	13,189	2,183	6,856	5,980	65.6
平成 11 年度	3,712	13,226	2,121	6,940	5,795	66.3

資料：石川町水道事業所

② 生活環境

- 公共下水道については、平成 6 年に全体計画が策定されているが、その後都市計画決定には至っていない。そのため現在、生活排水などが北須川や今出川へ流れ込み、河川環境の悪化が生じてきており、下水道の整備が必要となっている。
- 医療施設については、周辺町村と比較して充足度は高いと言える。
- 今出川沿いに親水型のあさひ公園が整備されているが、中心市街地にはまだ公園や緑地などのオープンスペースが不足している。
- その他としては、人口割合に対してそれぞれの地区において公民館が充実している。

③ 教 育

- 平成 11 年 5 月現在、町内には小学校が 8 校、中学校が 2 校あり、学級数及び児童生徒数は小学校 63 学級 1,380 人、中学校は 24 学級 844 人であり、経年別にみると全般的に減少の傾向にある。
- 幼稚園は 3 園あり、園児数は 149 人である。
- 高等学校については、県立石川高等学校と学校法人石川高等学校の 2 校が町内に創設され、学級数及び生徒数は 39 学級、1,650 人である。

小中学校の概況

	小学校 (8 校)		中学校 (2 校)	
	学級数	児童数 (人)	学級数	生徒数 (人)
平成 6 年	69	1,677	27	893
平成 7 年	67	1,649	26	875
平成 8 年	66	1,581	24	870
平成 9 年	65	1,527	24	836
平成 10 年	64	1,458	23	832
平成 11 年	63	1,380	24	844

資料：学校基本調査

(8) 交通環境

① 道路網

- 石川町は首都圏と東北地方を結ぶ大動脈である東北自動車道及び国道 4 号の東側に位置し、矢吹インターチェンジから東北自動車道を利用することによって東京と約 3 時間の距離にある。また、県中地域の中心都市である郡山市とは国道 118 号を経由して国道 4 号で結ばれている。さらに広域的には、郡山から東西に磐越自動車道が供用済であり、東北地方の太平洋沿岸地域や日本海沿岸地域との大幅な時間短縮が可能となっている。
- 本町の道路網は国道 118 号のほか、主要地方道 3 路線などの県道が市街地を中心として山間を放射状に伸びており、これらを町道が補完している。
- 道路区分別の改良率、舗装率では「国道」は共に 100%、「県道」は 99.1%となっており、改良率・舗装率共に高いものの、町中心部の交通量増加による交通渋滞から沿道住環境等の悪化を招いている。
- 町道については「幹線町道」の改良率と舗装率はそれぞれ 81.4%、85.1%、「その他の町道」が 40.1%、43.0%となっている。
- 都市計画道路は 11 路線総延長 12,350mが計画されており、改良率 12.7%、概成率 67.6%（昭和 62 年現在）となっているが、計画決定されて時期が古いため（昭和 25 年から 27 年）、現状の交通情勢に見合った規格を有していないと言える。

国・県・町道別道路状況

平成12年 4 月 1 日現在

区 分	路 線 数	実 延 長	改 良 率	舗 装 率
		m	%	%
国 道	1	10,189	100.0	100.0
県 道	11	68,764	72.3	99.1
町 道	530	394,529	47.8	50.8
1 級	10	36,812	89.3	96.9
2 級	20	36,713	73.5	73.3
そ の 他	500	321,004	40.1	43.0

資料：町都市建設課

都市計画道路の状況

番 号	名 称	延 長 (m)	幅 員 (m)	改 良 済		概 成 済		計 画 決 定 年 月 日
				延 長 (m)	構 成 比 (%)	延 長 (m)	構 成 比 (%)	
2.3.1	下泉屋敷入線	1,750	11	920	52.6	830	47.4	S26. 8.30
1.小.2	立ヶ岡北町線	2,300	8	0	0	1,180	51.3	S26. 8.30
2.小.2	今出橋本宮線	300	6	0	0	290	96.7	S26. 8.30
2.3.2	石川神前線	1,450	11	600	41.4	0	0	S25. 7.15
1.小.3	駅前立ヶ岡線	200	8	0	0	0	0	S26. 8.30
2.小.3	神前橋大室線	1,000	6	0	0	1,000	100	S27. 1.26
1.小.4	猫鳴宮橋線	2,500	7	0	0	2,500	100	S26. 8.30
1.小.5	鹿ノ坂南町線	150	8	0	0	0	0	S26. 8.30
1.小.6	新町長久保線	1,600	8	0	0	1,600	100	S26. 8.30
1.小.7	高田北町線	150	8	0	0	0	0	S26. 8.30
1.小.8	新町本宮線	950	8	0	0	950	100	S26. 8.30
合 計	11 路 線	12,350		1,520	12.3	8,350	67.6	

資料：都市計画年報

② 鉄 道

- 石川町にはＪＲ水郡線（水戸～郡山）の磐城石川駅と野木沢駅が設けられており、近年の乗降客数は磐城石川駅は減少し、野木沢駅は平成７年より増加傾向にあるが、運行本数自体は減少している。

各駅の乗降客数（１日平均乗車客数）			単位：人
	総数	石川駅	野木沢駅
平成元年度	1,165	1,056	109
2	1,031	932	99
3	999	903	95
4	970	879	91
5	842	746	96
6	838	740	98
7	833	735	98
8	844	727	117
9	827	690	137
10	823	678	145
11	774	648	126

資料：ＪＲ東日本

③ バ ス

- 石川町には福島交通及びＪＲバスが運行されており、石川営業所と磐城石川駅を起点として、ほとんどの幹線道路をバス路線がネットワークしている。しかし、運行本数は１日１往復から１０往復とサービス水準は低い状況にある。
- 路線バスを取り巻く環境は益々厳しくなり、バス利用者は年々減少し、補助金を交付するなど身近な公共交通機関としての維持に努めている。

(9) 市街化動向

都市計画基礎調査（平成 7 年）の資料をもとに、次の 2 点から最近の石川町の市街化の動向を検討する。

① 農地転用状況

- 平成 3 年～7 年の五か年における都市計画区域内の農地転用状況は 167 件、面積の合計は 124,581 m²で、うち住宅用が約 62.5% (77,893 m²) となっている。
- 地区別に転用件数をみると、用途地域外では北側の主要地方道飯野三春石川線沿い、用途地域内では特に東部の主要地方道いわき石川線の沿道での件数が目立っている。

農地転用状況

	件数 (戸)	宅地面積 (ha)	全体面積 (ha)
H.3	41	24,351	33,103
H.4	31	8,507	23,675
H.5	27	7,258	10,484
H.6	28	14,659	28,160
H.7	40	23,118	29,159
計	167	77,893	124,581

② 建物新築件数

- 平成 5 年～7 年の三カ年における都市計画区域内の新築件数は合計 112 件である。
- 地区別新築件数をみると、用途地域内全域と、北西部の野木沢駅周辺地区が多くなっている。

(10) 危険箇所等

① 砂防指定地

- 堀田川、今出川、飛鳥川等の阿武隈水系 11 河川において 15 箇所の砂防指定地が指定されている。

② 土石流危険区域

- 北須川、飛鳥川等の阿武隈水系 3 河川において 24 箇所、鮫川水系の組矢川において 1 箇所、合計 25 箇所において土石流危険区域が指定されている。

③ その他

- 内出、立ヶ岡、須沢の 3 地区において地すべり危険箇所が指定されており、その他町内 25 箇所において急傾斜地崩壊危険箇所が指定されている。

1-2 上位計画等の把握と都市整備の方向性

1. 上位計画等の把握

(1) 上位計画等

<国レベル>

21世紀の国土のグランドデザイン（平成10年）

- 東北地域の基本方向
21世紀に向け調和の取れた新しいライフスタイルが展開するフロンティア
- 施策の展開方向
 - <広域的な交流・連携の推進>
 - <世界に開かれた東北の形成>
 - <自然と共存する地域づくり>

<県レベル>

福島県長期総合計画（平成12年）

- 県中地域の基本的発展方向
 - ・ 心豊かなライフスタイルが展開できる地域の形成
 - ・ 高度産業・技術の集積を生かし産業拠点地域の形成
 - ・ 国際・広域交流圏の形成
 - ・ 都市機能の充実強化と地域連携・交流の促進

(新)阿武隈地域総合開発基本計画（平成6年）

あぶくま新都市（仮称）計画調査（平成9年）

- 石川町の位置づけ
 - ・ 空港活用型の諸機能が集積した「空と緑と臨空ゾーン」の形成
 - ・ あぶくま新都市（仮称：開発人口約1万人）の区域の一部

高度技術産業集積活性化計画

- 計画の目標
 - ・ 郡山市、須賀川市を中心としてこれまで培われた地域産業資源を活用した新事業の創出、地域産業の展開、高度技術産業集積の維持・強化

郡山地方広域市町村圏計画（平成3年）

- 石川地方：「臨空産業ゾーン」
 - ・ 高度技術産業の集積
 - ・ 大規模圃場を活かした都市型農業の展開
 - ・ 石川温泉郷のリゾート拠点化、滞在型観光レクリエーション拠点形成

<広域レベル>

首都機能移転（平成 11 年）

- 「栃木・福島地域」が移転先候補地に選定
 - ・ 豊かな自然と広大な開発可能地
 - ・ 災害に強い土地
 - ・ 交通ネットワークの充実

21世紀F I T構想（平成 5 年）

- 臨空都市ゾーンとして整備すべき機能
 - ・ 交通、物流機能
 - ・ 生産、研究開発機能
 - ・ 業務機能
 - ・ 居住、都市機能

<石川町第 4 次総合計画>

石川町第 4 次総合計画（平成 13 年）

- 町の将来像
「人・自然が融け合う あぶくま高原都市 いしかわ」
- 将来人口フレーム
平成 22 年： 21,500 人、6,000 世帯
- まちづくりの基本目標
 - ・ 心豊かに学ぶ力をつなぐまち（教育・文化）
 - ・ 自然と調和し安全で快適なまち（生活環境）
 - ・ 人にやさしく健康で安心して暮らせるまち（福祉）
 - ・ 活力に満ちたたくましいまち（産業）
 - ・ 町民と共に歩むまち（町民総参加）

（2）関連計画プロジェクト等

<石川町周辺関連プロジェクト・構想>

福島空港

- ・ 3,000m級滑走路への延長
検討

あぶくま高原道路

- ・ 福島空港以東の路線整備
→磐越自動車道まで

あぶくま新都市（仮称）

- ・ 将来居住人口
→新都市全体で約 10,000 人

<町内プロジェクト・構想等>

いわき石川線バイパス整備

- ・ 全体計画 4.9kmのうち事業区間約 1.7km
について着工済み（平成 12 年）

石川フェニックス構想

- ・ 墓地公園、斎場等を備えた複合型の地域整備
の検討

今出ダムの整備

- ・ 安定的な水の供給と地域基盤の整備

長久保地区における新市街地の形成

- ・ 沿道土地利用等の促進と低未利用地の
活用による新市街地の形成

<町内プロジェクト等の位置図>



2. 石川町の位置づけと都市整備の方向性

国・県レベルの上位計画、石川町第4次総合計画により、本町の位置づけ及び都市整備の方向性を次のとおりとする。

●石川地方の行政・教育・文化・商業等の中心都市

- ・ 本町は、11世紀半ばの石川有光公による三芦城の築城以来石川地方の中心都市として発展を続けてきており、また自由民権運動発祥の地としても知られている。
- ・ 現在では東北新幹線や東北自動車道等の高速交通体系、さらには福島空港に近接するなど、恵まれた交通条件にある。
- ・ こうした、歴史的な背景や交通条件等から今後も石川地方の行政・教育・文化・商業等の中心としての機能を果たしていくものとする。

●臨空型産業・物流展開ゾーン

- ・ 21世紀F I T構想や(新)阿武隈地域総合開発基本計画などによる本町の位置づけを踏まえ、福島空港への近接性及び高速交通体系をいかした臨空型産業・物流展開ゾーンの形成を図る。

●高生産性・都市型農業展開ゾーン

- ・ 大規模圃場整備等が行われた経緯等を踏まえ、町内の各地域特性をいかしながら農業経営の合理化推進、地域特産物の産地形成や遊休農地の適正な活用を図る高生産性・都市型農業展開ゾーンを形成する。

●温泉、森林、水辺などの地域資源を活用した交流ゾーン

- ・ 母畑温泉郷などの由緒ある観光資源や豊かな森林、水辺などの地域資源をいかし、福島空港や高速交通体系等と連携した交流ゾーンを形成する。

●広域的地域開発及び周辺都市との連携

- ・ あぶくま新都市(仮称)の実現、地方分権による効果的かつ合理的な都市経営や都市基盤整備等を推進するため、広域的地域開発に向けての関係機関及び周辺都市との連携を図る。

1-3 町民意向の把握

都市計画マスタープラン策定のための住民参加手法の第一弾として、平成11年1月に町民アンケートを実施した。アンケート対象者は、石川町に在住、在勤し日常生活の中において関わりが多い一般町民、10年20年後に町の将来を支えることになる高校生とし、まちづくりへの意見や要望などを幅広い年齢層より把握するものとした。

回答者の内訳は一般町民が477人、役場職員が207人、高校生が492人、計1,176人であった。

集計の結果、特に町の将来像や関心事等において大人（一般町民）と高校生のそれぞれの立場で認識の違いが生じる結果となっている。

【町での住みやすさの印象】

／住みやすいと感じている人は、一般町民では18.1%、高校生では8.7%

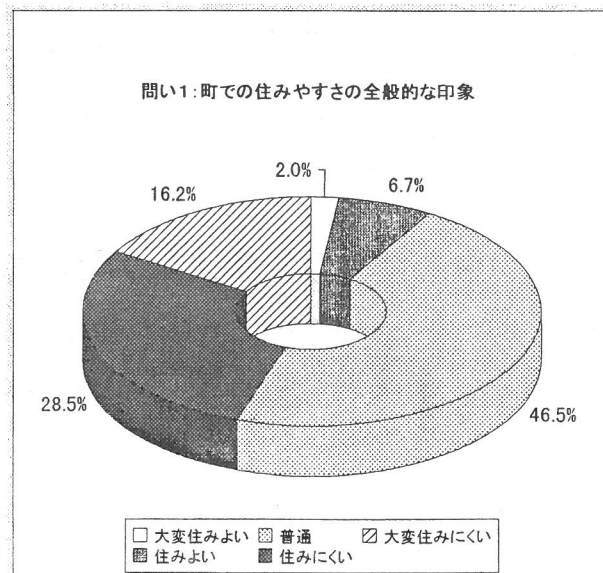
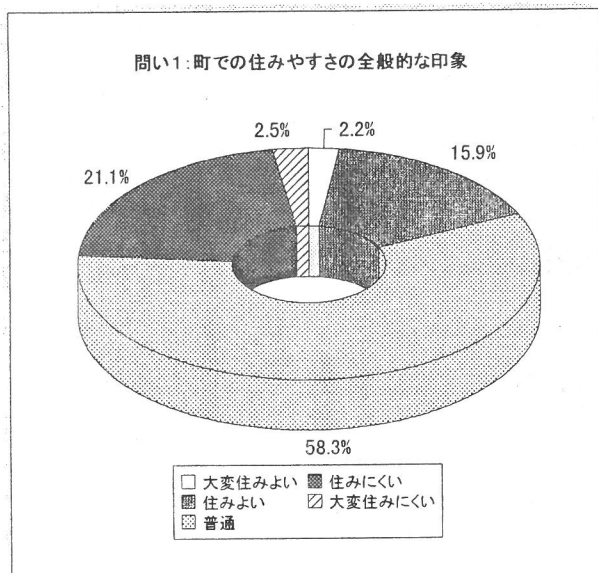
- ・『大変住みよい』または『住みよい』を含めた、全般的に住みやすいと感じている人が、一般町民の方については全体の18.1%であるのに対して、高校生については8.7%にとどまっている。
- ・一方、『住みにくい』または『大変住みにくい』を含めた、全般的に住みにくいと感じている人が、一般町民の方については全体の23.6%であるが、高校生については44.7%にもものぼっている。

一般町民

	回答数	割合
大変住みよい	15	2.2%
住みよい	110	15.9%
普通	403	58.3%
住みにくい	146	21.1%
大変住みにくい	17	2.5%
合 計	691	100.0%

高校生

	回答数	割合
大変住みよい	10	2.0%
住みよい	34	6.7%
普通	235	46.5%
住みにくい	144	28.5%
大変住みにくい	82	16.2%
合 計	505	100.0%



【日頃の暮らしの中での満足度】

『自然環境と景観』には高い満足度、『遊びや娯楽の場』には低い満足度

- ・一般町民の方については、『周囲に広がる森の自然環境と景観』、『通勤の便利さ』で高い満足度が見られる。しかし、『賑わいや活気のある遊びや娯楽の場』、『汚水・生活排水の処理』では必ずしも満足が得られているとはいえない。
- ・また、高校生についても『自然環境と景観』については同様に高い満足度が見られるが、『遊びや娯楽の場』、『買い物の便利さや魅力』などへの満足度は低いことがわかる。

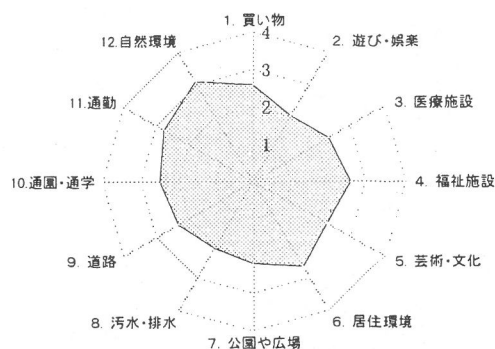
一般町民

問い2：日頃の暮らしの中での、満足度

	1 かなり満足	2 満足	3 普通	4 不満	5 かなり不満
1. 日常の買い物の便利さや魅力	13	46	333	270	49
2. 賑わいや活気のある遊びや娯楽の場	8	22	141	341	194
3. 医療施設の便利さや充実	8	40	257	292	117
4. 高齢者などの福祉施設	9	64	338	235	62
5. 芸術・文化や生涯学習の場	5	21	257	305	122
6. 住宅地としての周辺の居住環境	13	55	363	215	60
7. 身近な遊び場の公園や広場	12	29	191	332	146
8. 汚水・生活排水の処理	7	23	179	298	196
9. 道路の便利さや安全性	6	25	254	321	94
10. 通園や通学の便利さや安全性	6	46	303	281	69
11. 通勤の便利さ	17	60	397	171	43
12. 周囲に広がる森の自然環境と景観	36	165	368	111	28

問い2：日頃の暮らしの中での、満足度

●レーダーチャート用(かなり満足5点→かなり不満1点、とする)



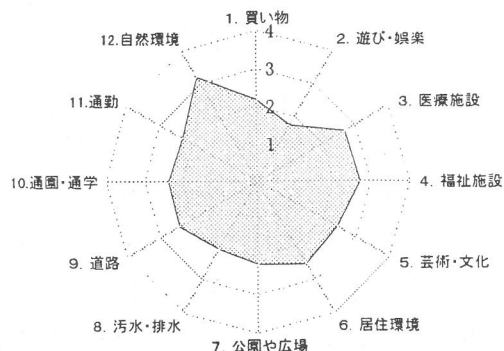
高校生

問い2：日頃の暮らしの中での、満足度

	1 かなり満足	2 満足	3 普通	4 不満	5 かなり不満
1. 日常の買い物の便利さや魅力	10	22	148	201	131
2. 賑わいや活気のある遊びや娯楽の場	4	12	60	199	237
3. 医療施設の便利さや充実	10	53	268	124	57
4. 高齢者などの福祉施設	8	39	305	117	42
5. 芸術・文化や生涯学習の場	5	12	265	143	85
6. 住宅地としての周辺の居住環境	8	36	253	132	80
7. 身近な遊び場の公園や広場	5	22	168	181	134
8. 汚水・生活排水の処理	3	11	187	131	180
9. 道路の便利さや安全性	4	34	225	147	99
10. 通園や通学の便利さや安全性	4	33	221	140	113
11. 通勤の便利さ	9	29	192	141	133
12. 周囲に広がる森の自然環境と景観	63	102	255	58	33

問い2：日頃の暮らしの中での、満足度

●レーダーチャート用(かなり満足5点→かなり不満1点、とする)



【まちへの愛着や誇り】

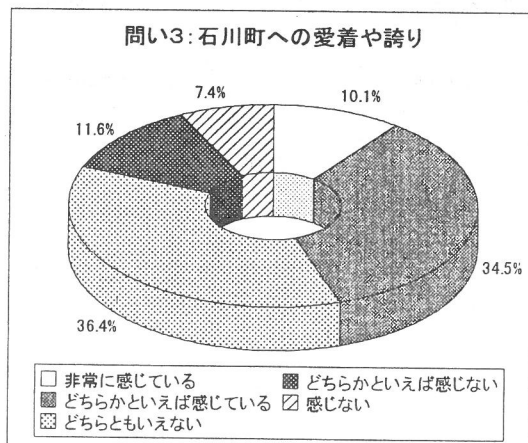
愛着や誇りを感じている人は、一般町民の方では44.6%、高校生では16.7%

- ・『非常に感じている』または『どちらかといえば感じている』含めた、愛着や誇りを感じている人は、一般町民の方については全体の44.6%であるのに対し、高校生については16.7%にとどまっている。
- ・『どちらかといえば感じない』または『感じない』を含めた、愛着や誇りを感じていない人は、一般町民の方については全体の19.0%であるが、高校生については45.4%にもなっている。

一般町民

問い3: 石川町への愛着や誇り

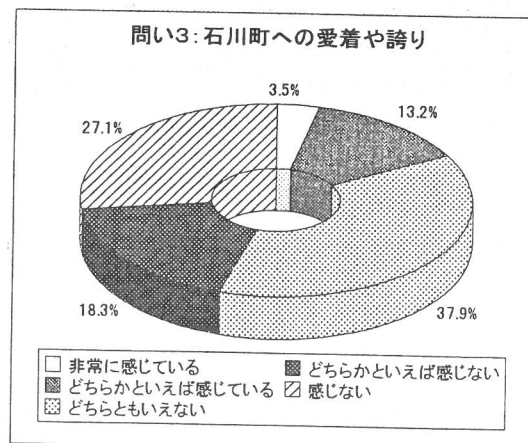
	回答数	割合
非常に感じている	71	10.1%
どちらかといえば感じている	242	34.5%
どちらともいえない	255	36.4%
どちらかといえば感じない	81	11.6%
感じない	52	7.4%
	701	100.0%



高校生

問い3: 石川町への愛着や誇り

	回答数	割合
非常に感じている	18	3.5%
どちらかといえば感じている	67	13.2%
どちらともいえない	193	37.9%
どちらかといえば感じない	93	18.3%
感じない	138	27.1%
	509	100.0%



【これからの石川町のまちづくりについて】

一般町民の方では、生活環境や暮らしに目を向けたまちづくり、

高校生では、商業や観光に目を向けたまちづくりに要望が集まっている

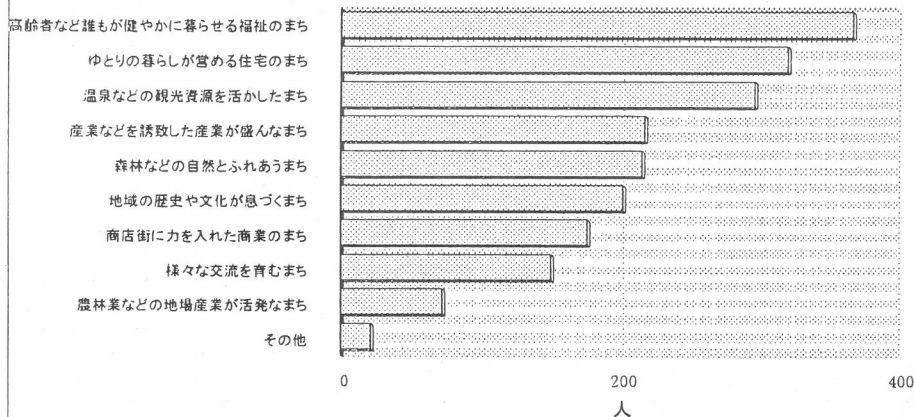
- ・一般町民の方については、『高齢者など誰もが健やかに暮らせる福祉のまち』が18.0%を占め、次いで『ゆとりの暮らしが営める住宅のまち』が15.7%となっており、身近な生活環境についての要望が多いことがわかる。
- ・一方、高校生については『商店街に力を入れた商業のまち』が22.2%、『温泉などの観光資源を活かしたまち』が17.3%となっている。このことから、暮らしの満足度が低かった『日常の買い物の便利さや魅力』の向上を求めている声が多いこと、また、石川町独自の自然を活かした観光のまちとして発展していくことを望んでいる声が多いことがわかる。
- ・また、その他を除けば、『農林業などの地場産業が活発なまち』がともに最も低くなっている。

一般町民

問い4: 石川町の将来のまちの姿

	人	
	回答数	割合
高齢者など誰もが健やかに暮らせる福祉のまち	367	18.0%
ゆとりの暮らしが営める住宅のまち	320	15.7%
温泉などの観光資源を活かしたまち	296	14.5%
産業などを誘致した産業が盛んなまち	217	10.6%
森林などの自然とふれあうまち	215	10.5%
地域の歴史や文化が息づくまち	202	9.9%
商店街に力を入れた商業のまち	176	8.6%
様々な交流を育むまち	150	7.4%
農林業などの地場産業が活発なまち	73	3.6%
その他	22	1.1%
合 計	2,038	100.0%

問い4: 石川町の将来のまちの姿

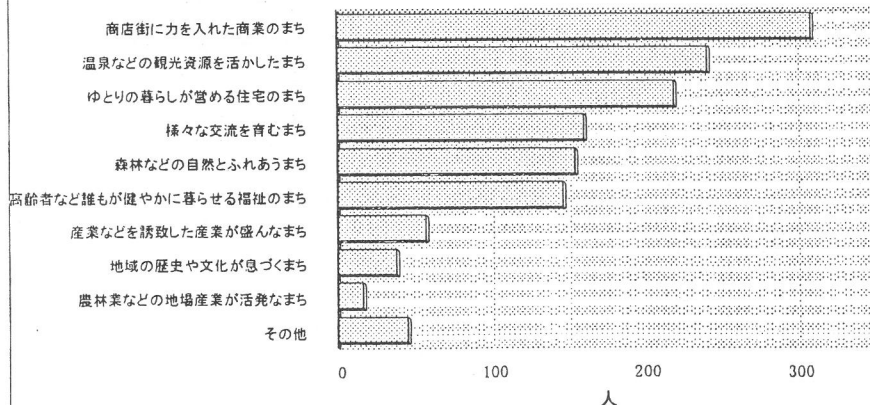


高校生

問い4: 石川町の将来のまちの姿

	人	
	回答数	割合
商店街に力を入れた商業のまち	310	22.2%
温泉などの観光資源を活かしたまち	242	17.3%
ゆとりの暮らしが営める住宅のまち	220	15.8%
様々な交流を育むまち	161	11.5%
森林などの自然とふれあうまち	155	11.1%
高齢者など誰もが健やかに暮らせる福祉のまち	147	10.5%
産業などを誘致した産業が盛んなまち	58	4.2%
地域の歴史や文化が息づくまち	39	2.8%
農林業などの地場産業が活発なまち	17	1.2%
その他	46	3.3%
合 計	1,395	100.0%

問い4: 石川町の将来のまちの姿



【快適な暮らしのために必要と思われること】

一般町民の方では、『医療、福祉施設の充実』を、

高校生では、『公共交通機関の充実』を求めている

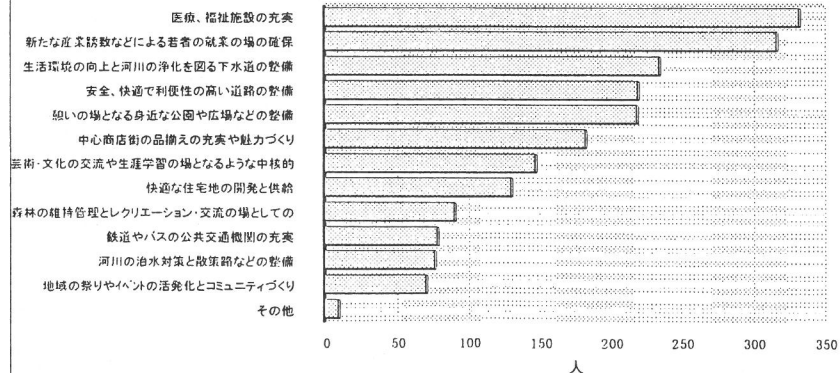
- ・一般町民の方については、『医療、福祉施設の充実』が必要であると考える人が15.8%、次いで『新たな産業誘致などによる若者の就業の場の確保』が15.0%となっている。『医療、福祉施設の充実』については、『誰もが健やかに暮らせる福祉のまち』を将来のまちの姿として望んでいることから浮き彫りにされているといえる。
- ・一方、高校生では『鉄道やバスの公共交通機関の充実』が20.6%、『中心商店街の品揃えの充実や魅力づくり』が15.4%となっている。普段、通学の足となっている交通機関の充実を求める声が多いこと、また、『遊びや娯楽の場』『買い物の便利さや魅力』への満足度が低かったことから中心商店街の魅力づくりへの要望が高くなっている。

一般町民

問い5: まちづくりに必要と思う施策

	人	
	回答数	割合
医療、福祉施設の充実	333	15.8%
新たな産業誘致などによる若者の就業の場の確保	317	15.0%
生活環境の向上と河川の浄化を図る下水道の整備	235	11.1%
安全、快適で利便性の高い道路の整備	220	10.4%
憩いの場となる身近な公園や広場などの整備	219	10.4%
中心商店街の品揃えの充実や魅力づくり	183	8.7%
芸術・文化の交流や生涯学習の場となるような中核的な施設	148	7.0%
快適な住宅地の開発と供給	131	6.2%
森林の維持管理とレクリエーション・交流の場としての整備	91	4.3%
鉄道やバスの公共交通機関の充実	79	3.7%
河川の治水対策と散策路などの整備	77	3.6%
地域の祭りやイベントの活発化とコミュニティづくり	71	3.4%
その他	10	0.5%
合 計	2,114	100.0%

問い5: まちづくりに必要と思う施策

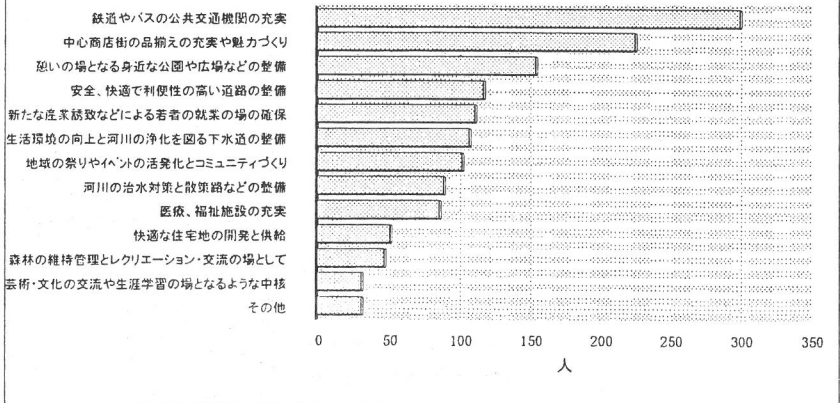


高校生

問い5: まちづくりに必要と思う施策

	人	
	回答数	割合
鉄道やバスの公共交通機関の充実	301	20.6%
中心商店街の品揃えの充実や魅力づくり	226	15.4%
憩いの場となる身近な公園や広場などの整備	155	10.6%
安全、快適で利便性の高い道路の整備	118	8.1%
新たな産業誘致などによる若者の就業の場の確保	112	7.7%
生活環境の向上と河川の浄化を図る下水道の整備	108	7.4%
地域の祭りやイベントの活発化とコミュニティづくり	103	7.0%
河川の治水対策と散策路などの整備	90	6.1%
医療、福祉施設の充実	87	5.9%
快適な住宅地の開発と供給	52	3.6%
森林の維持管理とレクリエーション・交流の場としての整備	48	3.3%
芸術・文化の交流や生涯学習の場となるような中核的な施設	32	2.2%
その他	32	2.2%
合 計	1,464	100.0%

問い5: まちづくりに必要と思う施策

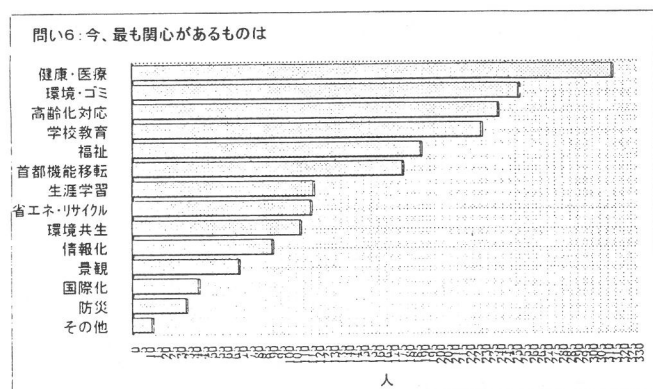


【今、最も関心のあるものについて】

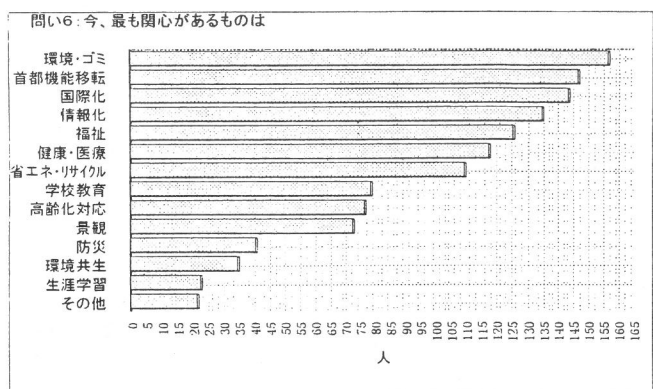
『環境・ゴミ』については皆が高い関心度を持っている

- ・一般町民の方では『健康・医療』が15.7%、『環境・ゴミ』が12.7%、『高齢化対応』が12.0%、『学校教育』11.5%の順になっており、医療・福祉、生活環境について最も関心が高いといえる。
- ・一方、高校生については『環境・ゴミ』が12.2%、『首都機能移転』が11.4%、『国際化』が11.2%、『情報化』が10.5%の順になっており、生活環境への関心の高さと現代の潮流となっている情報・国際化などへの関心度が高いことがわかる。
- ・また、『環境・ゴミ』が双方の上位に入っていることから、町全体の問題として捉えていく必要があるといえる。

一般町民		
	回答数	割合
健康・医療	314	15.7%
環境・ゴミ	253	12.7%
高齢化対応	240	12.0%
学校教育	229	11.5%
福祉	189	9.5%
首都機能移転	177	8.9%
生涯学習	118	5.9%
省エネ・リサイクル	116	5.8%
環境共生	109	5.5%
情報化	91	4.6%
景観	69	3.5%
国際化	43	2.2%
防災	35	1.8%
その他	13	0.7%
合 計	1,996	100.0%



高校生		
	回答数	割合
環境・ゴミ	157	12.2%
首都機能移転	147	11.4%
国際化	144	11.2%
情報化	135	10.5%
福祉	126	9.8%
健康・医療	118	9.2%
省エネ・リサイクル	110	8.5%
学校教育	79	6.1%
高齢化対応	77	6.0%
景観	73	5.7%
防災	41	3.2%
環境共生	35	2.7%
生涯学習	23	1.8%
その他	22	1.7%
合 計	1,287	100.0%



まとめと今後の石川町のまちの姿

石川町に生活する町民の方や、通学する高校生が、日頃感じている今後のまちの姿を総合的な観点から整理すると次のように考えられる。

- ①美しい森の自然環境を守り、育むまち
- ②誰もが快適に暮らすことのできるまち
- ③公共交通や商業施設などの利便性が高く、魅力的なまち
- ④一人一人が自然環境に配慮し、緑や水を守っていく意識を持つまち

(石川町町民アンケート調査より)

1-4 まちづくりの現況と課題

1. 土地利用の現況と課題

(1) 市街地域（用途地域及びその周辺）

- 石川町の用途地域は、既成市街地を中心に 286ha が指定されているが、その大半は住商又は住工の混在化した用途による土地利用となっている。
- 市街地内を流れる河川や、背後の急峻な山林等の地形的な条件により、市街化が幹線道路沿いに外延化する傾向にある。
- 国道 118 号沿道の長久保地区周辺については、用途地域内でまとまった未利用地となっていることから、道路交通条件などを踏まえた地区整備と適正な土地利用の誘導が課題である。

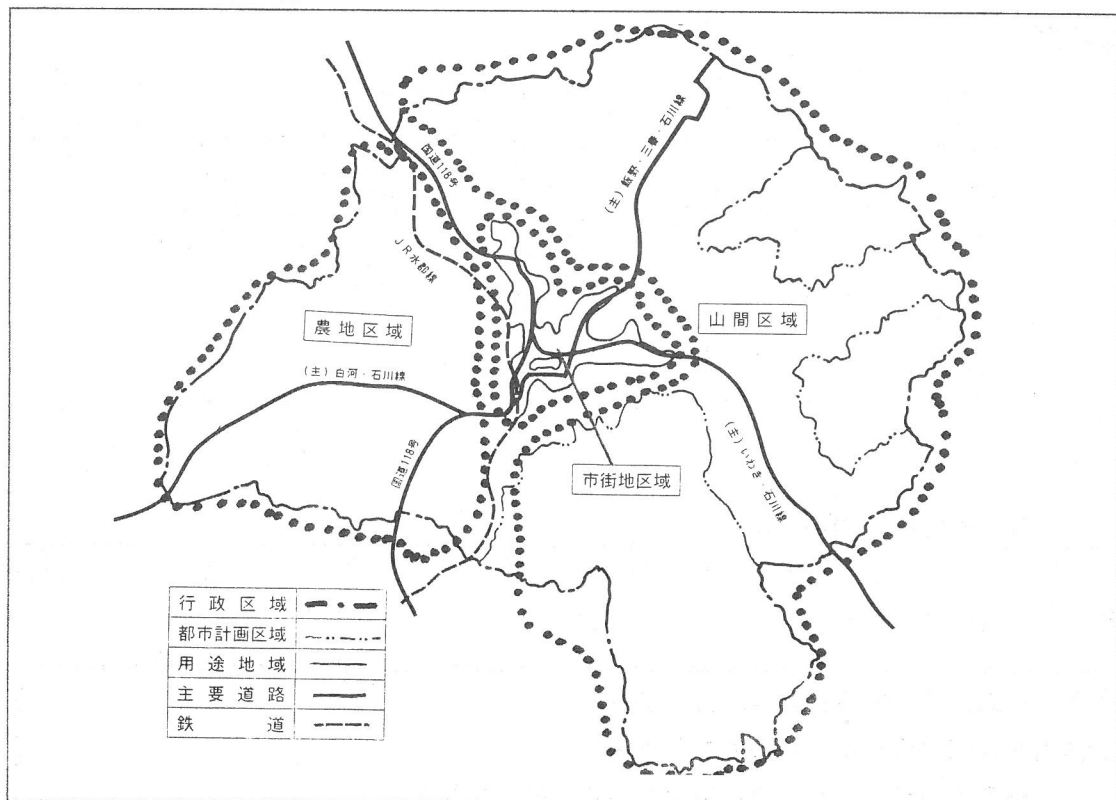
(2) 農地区域（西部地域等）

- 平坦な地形で農用地が広がる西部地域等においては、幹線道路の沿道土地利用と田園集落的な土地利用の調和とともに、遊休農地等の活用が課題である。

(3) 山間区域（北部、東部、南部地域）

- 町の面積の 1/2 を占める山林や自然地からなる山間区域については、自然環境の保全とともに、保養・レクリエーションゾーンとして、今出ダム周辺や母畑温泉等を活用していくことが課題である。

■土地利用の区域区分



2. 市街地整備の現況と課題

(1) 市街地内（用途地域内）

① 住宅地

- 国道 118 号沿道の長久保地区周辺については、暫定的な用途地域指定がなされ、まとまった未利用地となっていることから、道路交通条件などを踏まえた地区整備と適正な土地利用の誘導が課題である。
- 公的開発による小金塚団地、民間開発による大日向団地については、計画的な建物誘導が必要である。
- 町営住宅に関しては築 30 年以上の木造住宅が全体棟数の約 6 割（59.7%）を占めており、居住環境や景観及び防災面に配慮した更新が必要と考えられる。

② 商業地

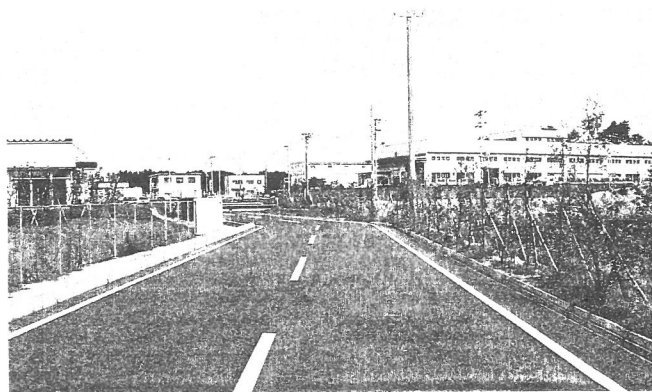
- 市街地中心部においては、建築物等が建て込んでいるとともに、道路等の基盤が不足しており、商業系用途地域が設定されているにも係らず、土地の高度利用がなされていない。
- 中心市街地内の店舗等においては、一部を除き駐車場が整備されておらず、路上駐車による歩行者への影響や、郊外型の店舗との競合による商店街の地盤沈下を招いている。
- J R 磐城石川駅周辺においては白河又は棚倉方面からの町の玄関的な位置にあるにも係らず、拠点性が低く、駅周辺における土地・建物の有効利用が課題である。

③ 産業用地

- 用途地域内には操業以来 30 年以上になる大規模工場等もあり、周辺環境との調和が懸念される。

(2) 市街地周辺（用途地域外）

- 国道 118 号や主要地方道いわき石川線等の用途地域外では、沿道土地利用の外延化が進んでおり、既存住宅地や農地との混在化が懸念されることから、長期的な視点での適正な土地利用誘導の検討が必要である。
- 市街地周辺部の西部工業団地については、周辺環境に配慮された操業環境が形成されている（⇒）。



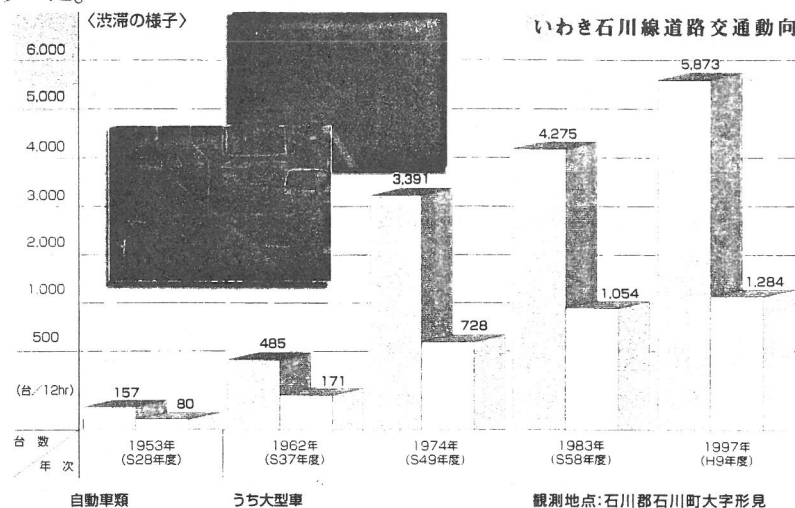
- 今後、川井地区におけるフェニックス構想の具体化、今出ダムの整備等による環境の変化に対しては、周辺への十分な対応が必要である。

3. 都市施設整備上の現況と課題

(1) 道路

①国、県道等

- 市街地を通過する主要地方道や県道が骨格道路となっており、大型車の通過交通も多いことから、これらを排除するバイパスの整備が必要である。
- 特に主要地方道いわき石川線においては、交通量の増加とともに大型車混入率が高く（平成9年21.9%：交通センサス）、道路線の渋滞解消は双里・新町地区住民の長年の要望であった。



資料：石川バイパスパンフレット（福島県中建設事務所）

- このため、平成13年2月に石川バイパスとして市街地の北側を通過する計画区間4.9kmのうち事業区間約1.7kmにおいて工事が着工された。
- また、本町としては市街地東側を通過する国道118号線のバイパス整備についても具現化へ向けて関係機関へ働きかけている。

②町道

- 町道の幅員別状況をみると、規格未改良部分のうち幅員3.5m未満の道路延長が全体の50%を占めている。
- このため、中心市街地等において4m以上の幅員を有する区画道路が不足し、地区更新が進まないとともに、防災面においても問題があると考えられる。

（単位：m・%）各年4月1日現在

年次	実延長	改良延長	改良率	舗装延長	舗装率
平成6年	389,458	164,092	42.1	179,956	46.2
7	389,375	167,034	42.9	184,843	47.5
8	386,529	166,754	43.1	185,245	47.9
9	391,980	175,295	44.7	189,422	48.3
10	392,367	183,302	46.7	196,352	50.0
11	394,529	188,508	47.8	200,576	50.8
12	394,442	190,377	48.3	202,407	51.3

資料：町都市建設課

②都市計画道路

- 都市計画道路については都市計画決定された年次・規格が古く、改良率も 12.3%と非常に低くなっている。
- しかし、中心市街地における既存道路については、古くからの道路形態が維持されてきており、また幹線的な道路でありながらも居住する町民の生活レベルの道路機能も有している。
- さらに、既成市街地化していることから、新たに拡幅を行なう場合においては建物等の立地状況から、地区によっては既存コミュニティの喪失につながる恐れもあり、拡幅等に要する用地確保は非常に困難であると言える。

(2) 公園・緑地

- 市街地中心部を見下ろす八幡山、石尊山、源平山の3地区が風致地区に指定され、良好な自然環境を保っている。しかし、親水公園として整備されたあさひ公園や町民グラウンド等を除くと既存又は計画中の街区公園はなく、市街地内にオープンスペースが不足している。
- 今出川等の水辺環境を活かすことが望まれるが、そのために河川環境の改善も必要である。
- 平成2年に都市計画決定された石川町総合運動公園は、平成7年の福島国体のハンドボール会場としても使用され、体育館が供用されている。

(3) 下水道

- 都市下水路は整備済みであるが、供用区域は市街地の一部である。
- 公共下水道については、平成6年に全体計画が策定されたが、長期的な財政計画との調整により、今のところ都市計画決定には至っていない。
- このため、現在でも生活排水等がそのまま河川に流入する結果となっており、市街地環境の改善における大きな課題となっている。

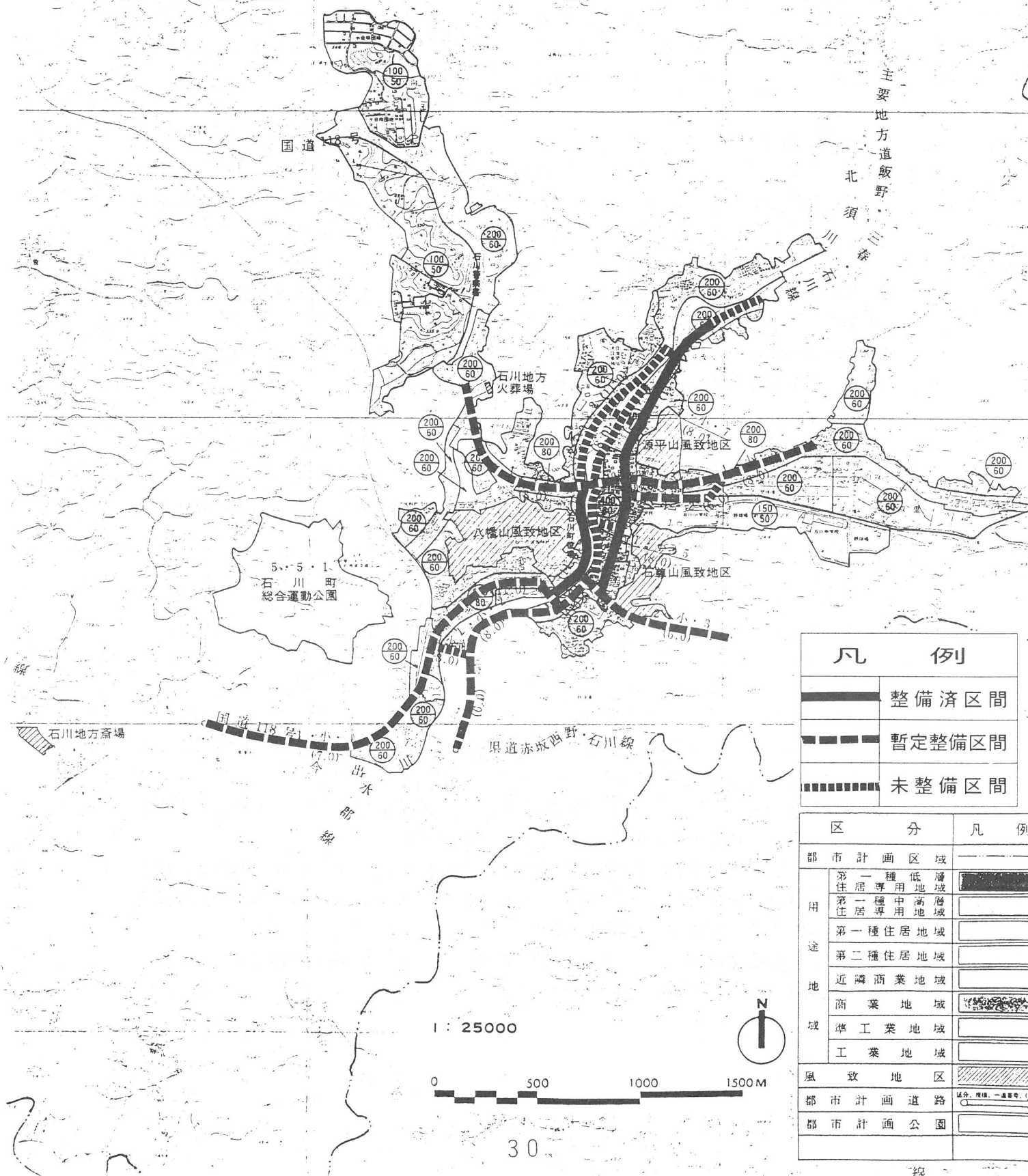
(4) 河川等

- 本町の河川はほとんどが阿武隈水系に属し、今出川、社川、北須川など1級河川の要改修区間 48.7k mのうち改修完成区間 13.8k m (28.3%)、暫定改修区間 9.1k m (18.7%)と随時整備が進められている。しかし、急傾斜地の多い地形や、雨水排水路等が完備されていないため、豪雨時の災害も懸念される。
- 砂防指定河川は今出川、飛鳥川等 11 河川あり、砂防ダム8基によって整備が進んでいるが、砂質土のため洪水時の土砂の流出が多い。
- こうした治水・防災上の観点から河川整備は急務であるが、本町の都市構造及び都市景観上大きな特徴である市街地内を流れるこれらの河川においては、水質や流域環境の保全にも十分配慮する必要がある。
- また、土石流危険区域については、北須川、飛鳥川などに 25 箇所が指定されており、安全対策に関する十分な対応が必要である。

県道母畑・白河線

主要地方道

都市計画道路の整備状況

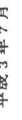


凡 例

	整備済区間
	暫定整備区間
	未整備区間

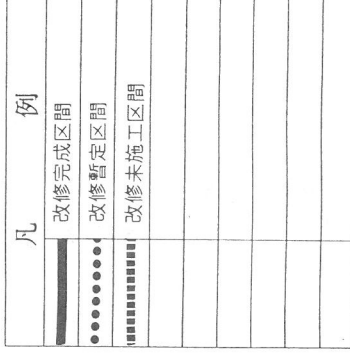
区 分		凡 例
都 市 計 画 区 域	第一種低層地域	
	第一種中層地域	
	第一種住居地域	
	第二種住居地域	
	近隣商業地域	
	商業地域	
	準工業地域	
風 致 地 区	工業地域	
	風 致 地 区	
	都市計画道路	
都市計画公園		

河川整備の状況（1級河川・準用河川）



(石川土木事務所管轄分のみ 平成10年3月)

平成3年7月



仙台市青葉区二日町13-30 株式会社 仙台地図の店 納
☎380 ☎022 (222) 8467(代)

4. 都市景観、都市環境等の現況と課題

(1) 都市景観の現況と課題

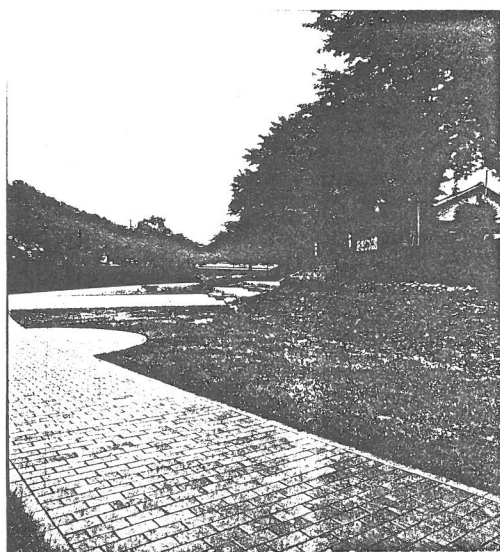
- 本町はその立地特性から、急峻な地形と河川、市街地が織りなす独自の都市景観（ランドスケープ）を有している。
- 特に、河川景観は良好で河岸の桜並木に代表されるような、四季折々の美しい景観を呈している。
- また、石都々古和気神社、小和清水等の歴史的景観資源を有するとともに、石川町総合運動公園、あさひ公園等の新たに整備された施設の景観資源も存在する。
- しかし、個々の家並みや街並等の身近な景観としては、これと言った特徴は見られない。このため、個性的で賑わいのある中心商業地、落ち着きとゆとりのある住宅地景観等の創出が必要である。
- また、沿道土地利用の外延化により、建築物や広告看板類等と田園景観等との調和も懸念される。



クリスタルパーク石川「光の塔」



<クリスタルパーク石川>



<今出川河岸のあさひ公園>

(2) 都市環境の現況と課題

- 本町には石川地方生活環境組合のし尿処理センターがあり、生活環境の衛生化を促進するものとして期待されている。
- しかし、最大の景観・環境資源である河川環境が年々悪化しており、都市施設において述べたように、下水道整備の早期事業化が望まれる。
- また、地球規模での環境問題、高齢化社会の到来とともに、昨今のダイオキシン問題と併せ町民アンケートにおいては「町中にごみが多い」という意見も多く見られ、バリアフリーと人にやさしいまちづくり、環境共生型のまちづくり、省エネルギーとリサイクルのまちづくり等にも十分な配慮が望まれる。